

発達わんぱく会

【 幼児教育プロデュース 】

2010/11/30 更新

発達障害のある幼児が早期教育を受けて健全に成長していきます。

幼児教育の現場で幼児とともに成長します。幼児教育のビジネスモデルを確立し、全国に幼児教育施設を拡大します。新しい施設で、新しい出発です。一緒に取り組んで、理念を実現に立ち会って下さい。

■ 募集要項



▲ 浦安市には、現在約8,000名の幼児期の子どもがおり、厚生労働省発表の幼児期における発達障害の出現率6.3%を掛けると約500人が発達障害と試算されます。



▲ 現在、浦安市において児童デイサービスは浦安市子ども発達センターのみで提供されており、その数は約50-100名と考えている。つまり現在サービスを利用しているのは1-2割であり、残りの8-9割はまだサービスを利用していません。こうした事業環境の中で、損益分岐点である30人の顧客を獲得し、低コストで運営することで、この事業所を黒字化させ、ビジネスモデルを確立します

● 幼児教育のビジネスモデルの確立に参画

発達障害は、「できるだけ早期に発達支援を行うことが特に重要である」といわれています。早期に適切な教育をうければ、健全に発達して自立した生活を送ることが可能です。一方早期介入を怠ると、ことばや社会性の発達が遅れるばかりか、虐待・いじめ・不登校・引きこもりなどの社会問題の発生要因となります。

しかし、幼児期に教育を受ける子どもの数は非常に少ないのが現状です。原因の一つは、高コスト体質による教育施設の不足です。そこで私たちは現在のコスト構造を3分の1まで下げることで、幼児教育事業を採算ベースに乗せることを実現し、全国の教育施設の不足解消を目指します。ちなみに、コスト低減の方策は以下4点です。①療育プログラムを500段階に系統化②運営システムに業務改善プログラムを導入③地域社会に密着④療育サービスに特化(保育サービスを最小限に)

● 幼児教育の臨床現場を肌で体感

『発達障害のある子どもが、コミュニケーションの力を身につけ、長所を伸ばし、地域のなかで自分らしく生きていけるよう、家族、地域、行政のみなんで支援する』という思いから、私たちは「発達わんぱく会」を設立しました。ことばの遅れている子どもには言語指導・認知指導を、社会性の遅れている子どもにはソーシャルスキル・トレーニングを、週1~5回実施し、発達段階に応じた教育サービスを提供します。

発達障がい児の教育は、これからの分野です。試行錯誤しながら効果の上がる教育方法を作り上げるとともに、自己のキャリアアップの機会をできる限り確保し、次世代の発達障がい児教育をリードする立場を目指して行きます。

● 新規出店の責任者に

4月の出店に引き続き、10月には二店舗目の出店を予定しています。半年間で力をつけて、実績を出し、出店責任者を任せたいです。

期待する成果:

子どもの個性は十人十色です。さらに子どもの成長は日進月歩です。一人として同じ子どもはおらず、また一日として同じ子どもはいません。オーダーメイドのマンツーマン教育を実践して、その子の発達課題に応じた最適な教育を提供するために、職員は日々子どもの様子を観察し、新たな教育プログラムを実施し、成果を評価してそして次の教育につなげていかなければなりません。しかし、ややもすると、職員は日々の業務に追われる中で、感性を鈍らせたり、チャレンジする気持ちを失ってしまいがちです。そのような状況になると、教育プログラムが停滞し、子どもの発達課題に合わない不適切な教育が提供されることとなります。

インターン生には、子どもの様子に対して高い感性を維持し、「この教育をするのはなぜ?」「この教育は、この子にプラスになるの?」と探究心にあふれた観点を常にもって、子どもや職員と接してほしいです。そのことにより、職員が常に高い感性と業務改善意識を維持し、子どもの発達課題に応じた教育を提供し続けられると考えます。

また、年齢的に子どもに近いインターン生が、教育プログラムを企画することで、子どもの興味をより刺激する内容が期待できると考えます。

さらには、PC、デザイン、企画など、インターン生の得意な部分を、施設の運営に活かしてほしいと思っています。

募集の背景:

1. 組織の活性化

インターン生の感性と探究心に触発され、職員が常に感度の高い感性と、高い業務改善意識を維持し、組織全体の活性化につながります。

2. 教育プログラムの質の向上

「スペシャル教室」を、年齢的に子どもに近いインターン生が企画することで、子どもの興味をより刺激することが期待できます。

3. 収益の拡大

「スペシャル教室」にひと組の家庭が参加すると、施設は約1万円の収入になります。毎月1回、祝日などに開催することで、約10-15万円(定員は10-15名)の収益拡大が期待できます。

仕事内容:

幼児教育の現場を熟知 ⇒ 幼児教育プロデュース ⇒ 新規出店の責任者

【STEP1】幼児教育の現場の熟知

「ことばの教室」において、指導員補助として個別教育のサポートをしてもらいます。

「こころの教室」「特技の教室」において、メインティーチャーの指導のもと、担当の子どもに教育を提供してもらいます。

その他、インターン生の興味と能力に応じて、施設の運営面のお手伝いをして頂きます。

【STEP2】幼児教育プロデュース

「スペシャル教室」において、企画立案・広報活動・実施運営・評価改善まで、責任をもって行っていただきます。ハロウィンパーティ、クリスマスケーキ作り、餅つき大会、潮干狩り、セミ取りなど、季節感のあるイベントを想定しています。

【STEP3】ビジネスモデルの確立及び、新規出店の責任者

平成23年の秋頃には、2店舗目のオープンを予定しています。その責任者に着任してほしいと思っています。

得られる経験:

幼児教育の実務経験

幼児教育の現を経験する機会は、非常に限られています。このインターンシップでは、かけがえのない幼児教育の実務経験を積むことができます。

ビジネスモデル確立のフレームワークを実践

ビジネス経験豊富な代表と二人三脚になって、幼児教育のビジネスモデルの確立に向け、多くのフレームワークに基づき試行錯誤を繰り返します。そのことを通して、教室での勉強だけではなく、現場での実践に耐えうる経済学・経営学を身につける事ができます。

新規出店の修羅場を経験

新規出店とは、無から有を作る、大変な作業です。理屈ではない、聞くだけではわからない、数々の苦難を乗り越えて、実現させていくものです。新規出店経験の豊富な代表と二人三脚になって新規出店に取り組むことで、やってみて初めて知ることのできる多くの学びを得る事ができます。

対象となる人:

幼児教育に興味がある人

毎日幼児と接します。子どもが好きでなければ、勤まりません。子どもが好きな人には、楽しくてしょうがない職場です。

経営に興味のある人

幼児教育のビジネスモデルの確立に向け、試行錯誤を繰り返します。勉強しながらチャレンジすれば

構わないので現時点で知識がある必要はありませんが、勉強しようという気持ちがないときついでしょう。経営に興味のある人にとっては、教科書に書いてあることを、自分が実際にやってみる事ができる、かけがえのない場となるでしょう。

修羅場にチャレンジしたいと思える人

新しく事業を始めることは、並大抵のことではありません。想像もつかない日々の連続です。それを楽しむことのできる人でないと、辛いと思います。修羅場をチャレンジしたいと思える人には、毎日がわくわくどきどきの魅力的な職場です。

- 事前課題:** 詳細はコーディネーターまでお尋ね下さい。
- 期間:** 6ヶ月以上
- 勤務条件:** 【勤務頻度】
 ◎学期中:週7日(土日含む)のうち、最低週2日(AM8:30~17:30、移動時間除く)、今回のインターンに時間を投資できる人
 ◎休暇中:週5日フルタイム勤務(土日勤務の場合もありますが、その場合は平日休みとなります)
 【勤務時間】
- 勤務地:** 千葉県浦安市東野1-4-16-1F (東西線浦安駅・京葉線新浦安駅からバス15分)
- 活動支援金:** あり
- 発達障害とは:** 発達障害とは、2004年に支援の対象として認められた「第4の障害」であり、自閉症やアスペルガー症などの広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害(ADHD)、学習障害(LD)などを指します。国の試算では子どもの6.3%が発達障害だといわれています。しかし現状は、ごく一部にしか特別な支援がなされていません。発達障害は、早期発見・早期教育が大切といわれています。幼児期に適切な教育をうければ、健全に発達して自立したおとなになることが可能といわれています。しかし、どんなに発達障害のある子どもへの教育を推進しても、その子の障害が治るわけではありません。障害と向き合いながら生活できるようになるだけです。そのため、地域住民が障害のある子どもへの理解を深めて、発達障害のある子どもが住みやすい地域社会を作る事が、とても大切になります。たとえば自閉症の子どもは、ことばを話せて要求を正しく伝えることができても、自然な会話はなかなか難しいでしょう。その事を周りの人たちが理解して、自然な会話が苦手な事を「あの子はちょっと変だ、性格がひねくれている」ではなくて、「あの子の個性なんだ」と解釈し、配慮を持って接することが大切になります。しかし現状において、両親を含めて社会の理解はほとんど進んでいないと言ってよいでしょう。親の不理解は虐待を生みます。教師の不理解は不適切な指導や学級崩壊を生みます。友人の不理解はいじめを生みます。親戚や近所の人たちの不理解は育児環境を狭め、親の育児に対する自信を奪います。子どもへの直接的な教育と並行して、両親をはじめとした地域社会の人たちの理解を得ることが、極めて重要になります。また発達障害のある子どもは、人間にとってとても重要な自尊感情が育ちにくいとされています。親から適切な愛情を感じられず、教師からは罵倒され、友人からは馬鹿にされ、親戚や近所の人たちから相手にされなければ、自尊感情が育つ事は難しいでしょう。自尊感情の欠落は、不登校、引きこもり、ニートなどの社会不適応の大きな原因になります。本人が適切な教育を受け、社会の正しい理解が得られることで、自尊感情は健全に育成され、自分らしい人生を送る事ができると考えます。
- 助成金事業等:** 2010.9~ ソーシャルベンチャー・スタートアップマーケットメンバーに選出(内閣府「地域社会雇用創造事業」の資金によりNPO法人ETICが実施する事業)
 2010.11~ 浦安市協働事業提案制度採択候補事業に選出

■ 受入団体紹介

『日本の発達障がい児者を幸せに』

私たちは日本全国の発達障害のある子どもに、幸せになってほしいと思っています。幸せとは、その人それぞれが自分で定義するものです。自分で自分の幸せを決める事ができ、その幸せを実現して自分らしく生きてほしいと思います。現状はまだそんな社会にありませ



▲ 事業所名は「こっこ こころとことばの教室」です。愛称である「こっこ」には私たちの思いを込めました。最初は、みんなだれでも“ひよこ”です。

発達わんぱく会

■事業内容:

障害者自立支援法の児童デイサービスを、浦安市に12月に開設し、来年3月より運営します。

[顧客]・発達障害のある幼児期の子ども(1~5歳児)

[提供価値] ・ことばと社会性を身につけ、得意なところを伸ばす教育

[商品]

包括アセスメントに基づき個別支援計画を作成し、言語・認知指導やソーシャル・スキル・トレーニングを中心とした手法を用い、オーダーメイドのマンツーマン教育を提供します。狙いや子どもの発達課題に応じ、以下の5つのメニューを用意しています。

- 1.「ことばの教室」。発達段階に応じて個別教育プログラムを実施。(週1~5回、9時、14時、15時スタート)
- 2.「こころの教室」。発達段階に応じて教育プログラムを小集団で実施。(週1~5回、10時30分スタート)
- 3.「特技の教室」。得意なところを伸ばすため、2週間に一回開催。
- 4.「スペシャル教室」。社会性を身につけ、またその子の新たな可能性を見つけ出すため、月1回開催。
- 5.「おうちのおうち」。家庭の教育環境の整備のために、不定期で実施。

■設立: 2009/8/12

■代表者: 代表/小田知宏

■従業員数: 3

■資本金: -

■売上高: -

■会社HP: <http://ameblo.jp/odatomo/>

んが、今私たちが動かなければ、いつまでたっても発達障害のある子どもが暮らしにくい社会のままだと思っています。「日本の発達障がい児者を幸せにする」という使命に共感できる人が集まって、活動を進めます。

私たちの理念は、『発達障害のある子どもが、コミュニケーションの力を身につけ、長所を伸ばし、地域のなかで自分らしく生きていけるよう、家族、地域、行政のみんなで支援する』ことです。発達障害のある子どもにとって、地域の中で自分らしく生きていくことが、幸せに生きるための大切な要素だと考えます。その実現のためには、苦手であるコミュニケーションの力を身につけて社会性を高めることと、自分の得意なところを見つけてその長所を伸ばして自尊感情を育むことが重要です。

しかし、子どもの努力だけでは問題解決にはならず、家族、親せき、友達、学校や近所などの地域の人たちの発達障害の子どもに対する正しい理解と温かい支援が必要不可欠です。さらには行政のきめ細やかな対応と一貫性のある支援がなされることで初めて、発達障害のある子どもの幸せを実現する事ができます。

私たちのNPO法人の名称は、『NPO法人発達わんぱく会』です。

「発達」ということばには、「発達障害」のある子どもを支援するという意味と、「その子のもっている、今一番成長できる能力」を伸ばしてあげたいという思いの、二つの意味を掛けました。

「わんぱく」ということばには、一つは子どもに対する思い、もう一つはおとなの子どもへの接し方に対する思いの二つの意味があります。子どもには自分の好奇心を大切に元気いっぱい遊んだり学んだりする中で、自分の好きなことや得意なところを見つけてそこを伸ばして欲しいと思っています。おとなには子どもに安全で適切な環境を用意して、子どもが自分の力で成長するのを温かく見守ってあげて欲しいと思っています。

「会」ということばには、同じ志を持つ多くの人が集まり、使命や理念を一緒に実現してほしいという思いがあります。

つまり、「発達わんぱく会」というNPO法人の名称は、「発達障害のある子どもが好奇心いっぱいに遊んだり学んだりすることで、今一番成長できる能力を伸ばしていけるように、家族・地域・行政がみんなで支援する」という思いから名づけました。

私たちのNPO法人は、早期発見事業、早期教育事業、地域社会の理解促進事業を中心に活動を行い、6.3%の全ての発達障害のある子どもが、適切な教育を受けられる環境を整備し、同時に日本の社会において、発達障害が正しく理解され、発達障害のある子ども一人ひとりが尊重される社会を目指します。

■経営者・スタッフ・インターン生からのメッセージ



▲ すべての子どもは成長する力を持っています。その子に適した教育環境を整えることで、子どもは無限の可能性を発揮します。一人ひとりの個性を思いっきり伸ばし、生きる力を共に育てていきたいと思っています。

幼児向けマンツーマン教育サービスを全国へ

私は子どもの頃、重度心身障がい者である叔母と同居していました。そのため障がい者を特別だとは思わず、一人の困っている人として支援したいとの考えを持っていました。

障害福祉の勉強をする中で、日本の子ども全体の6.3%が発達障害を抱えている事、虐待・いじめ・学級崩壊・不登校・引きこもり・ニートなどに発達障害が深く関わっている事、発達障害には早期教育の効果が高い事などを知りました。しかし教育には大変なコストがかかるため採算が合わず、現状では大学や公的機関でわずかに実施されているにすぎません。さらに、特別支援教育が整っている小・中・高校に比べ、保育園・幼稚園ではほとんど教育の機会が用意されておらず、もっとも効果が高いと言われる幼児期に、教育を受ける

代表 / 小田知宏

1989.4～1992.3 愛知県立岡崎高等学校
 1993.4～1997.3 東京大学文科Ⅱ類/経済学部
 1997.4～1999.12 株式会社丸紅 化学品経理部など
 2000.1～2008.2 株式会社コムスン 関東支社長、障がい支援事業部長、教育研修部長など
 2007.4～2009.3 日本福祉大学中央福祉専門学校社会福祉科(通信課程)
 2008.4～2010.5 スターティア株式会社 執行役員社長室長など
 2010.4～ 筑波大学人間学群障害科学科聴講生・科目等履修生
 2010.8～ 筑波大学大学院科目等履修
 1973年生まれ(36歳)。東京大学経済学部卒業後、株式会社丸紅を経て、株式会社コムスンに入社。関東支社長や障がい支援事業部長などを勤め、障害福祉に8年間携わりました。廃業に伴い株式会社コムスンを退職し、スターティア株式会社に勤務、上場企業の執行役員社長室長としてビジネス経験を積みました。障害福祉にかける情熱は衰えず、社会福祉士の資格を取得し、今春スターティア株式会社を退職、発達障がい児者を幸せにするために、NPOを設立して事業開始に向けて準備中です。

機会がほとんどない現状を知りました。

私は株式会社コムスンで障がい支援事業部長の時、小学生に集団教育を提供する児童デイサービスを4ヶ所開設しました。この経験から、児童デイサービスの枠組みを使い、教育プログラムと運営システムを確立して教育セッションを1日3～4回行えば、民間でも幼児向けマンツーマン教育サービスを提供できると判断しました。このプランを実証し、事業モデルを全国のNPO等に移植して、日本の発達障がい児者の幸せに寄与したいと思います。

**家族に近い立場で、お母さんの子育てや介護の不安や悩みを解消したい**

教育担当 / 原田まどか

家庭教育

家族の中では、みんなが主役。誰かが頑張ったり、犠牲になるのではなく、みんながそれぞれに輝ける場所がきっとあるはず。こどもの発達を願う気持ちは家族のみんなが同じです。その実現に向けてご自宅を訪問し、日常の具体的なアドバイスを通し、日々の生活を明るく豊かにするお手伝いをします。

子育てカフェテリア

お母さんと子どもが、気軽に集います。子どもは楽しく遊び、お母さんは悩みを話し合ったりしながらリラックスした時間を過ごします。こどもの困り感の気づきの場として、定期的開催して多くのお母さんに参加してもらいます。

1. 遊びの場の設置: 年齢の近い幼児とその親が集まり、遊びを通して触れ合う。
2. 子ども同士の自然な遊びの中、典型発達との比較をとおして、発達障害の特性である社会性の困難さや発達のゆがみについての会話を、親の気持ちに寄り添いながら丁寧に進めていく。
3. スタッフにより、具体的な接し方や対応方法を伝えたり、接し方の見本を見せたり、他の家族の接し方を参考にすることで、育児の不安を取り除き、子育ての楽しさを再発見できるように導く。
4. 同じ「困り感」を持つ子どもを育てる親同士が、いつでも相談できる仲間として地域コミュニティを作られる環境を用意する。

★ETICの担当スタッフから一言

(細田)

事前に調べておこう:

※本プロジェクトは内閣府・地域社会雇用創造事業交付金事業の採択を受けた「ソーシャルビジネスエコシステム創出プロジェクト」の一環として運営されています。